

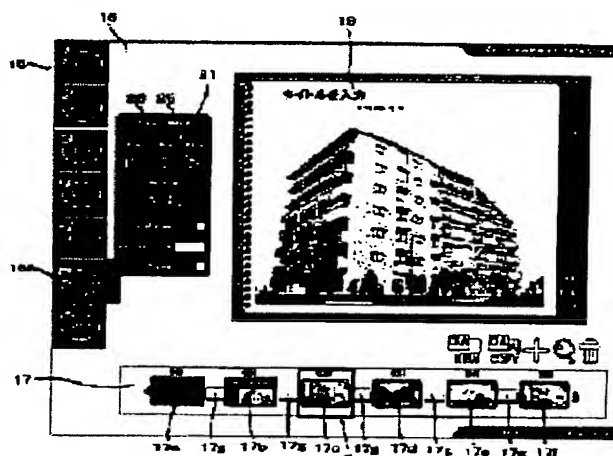
DEVICE AND METHOD FOR DISPLAYING PRESENTATION DATA, AND COMPUTER-READABLE RECORDING MEDIUM RECORDING PRESENTATION DATA DISPLAY PROGRAM

Patent number: JP2000259135
Publication date: 2000-09-22
Inventor: HATAMA KENJI; YAMADA AKIHIRO; ENOMOTO TETSUYA; AMANO RYUHEI; TAKEMOTO MASASHI; IHARA KANJI
Applicant: SANYO ELECTRIC CO LTD
Classification:
- International: G09G5/00
- european:
Application number: JP19990065318 19990311
Priority number(s):

Abstract of JP2000259135

PROBLEM TO BE SOLVED: To confirm the finishing state of presentation data while confirming the context of slides by reducing plural sheets of the slides of presentation data to list-display to visually emphasize.

SOLUTION: A list-display area 17 has six places of display areas 17a to 17f to be used for selecting new preparation and a conventional data reading work 15a in a work selecting area 15 to reduce successively prepared slides to thumbnail-display from the area 17a or to successively thumbnail-display presentation data read by the selection of the work 15a by the portion of six slides from the first one from the area 17a. When a preview picture is displayed, the first slide is displayed in a slide display area 18 and the first to sixth slides are successively displayed in the display areas 17a to 17f in the area 17. Then, the color of the frame of the area 17 of the slide presently displayed in the area 18 is changed to emphasize display.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-259135

(P2000-259135A)

(43) 公開日 平成12年9月22日 (2000.9.22)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ターミナル (参考)
G 0 9 G 5/00	5 1 0	G 0 9 G 5/00	5 1 0 B 5 C 0 8 2
	5 3 0		5 3 0 H
			5 3 0 M

審査請求 有 請求項の数12 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願平11-65318

(22) 出願日 平成11年3月11日 (1999.3.11)

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 泰間 健司

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72) 発明者 山田 晃弘

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(74) 代理人 100111383

弁理士 芝野 正雅

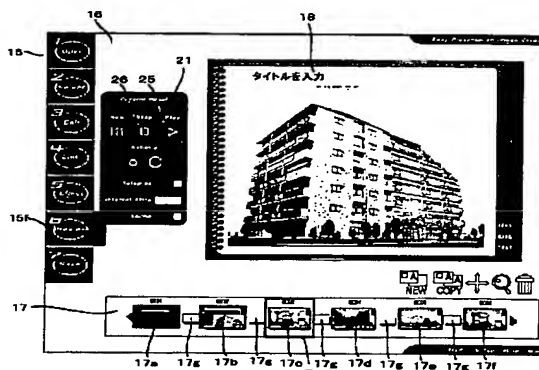
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 プレゼンテーション資料表示装置、プレゼンテーション資料表示方法及びプレゼンテーション資料表示プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 プレビュー中に前後の画像を考慮しながら出来栄を確認するには、一度プレビューを停止終了し、再度一覧表示に切り換える必要があり、確認に手間がかかるとともに、時間的なロスが大きかった。

【解決手段】 記憶手段からスライドを複数組み合わせ形成したプレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを表示画面の一覧表示領域17に縮小して表示する読み出し手段と、該読み出し手段で読み出したプレゼンテーション資料のスライドを表示画面のスライド表示領域18に順次表示させる再生手段と、前記一覧表示領域17に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域18に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示手段とを備えた構成である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 スライドを複数組み合わせで形成したプレゼンテーション資料を記憶する記憶手段と、前記プレゼンテーション資料のスライドを表示するスライド表示領域と前記プレゼンテーション資料のスライドのうち複数枚を縮小して一覧表示する一覧表示領域とを有する表示画面を表示する表示手段と、前記記憶手段から前記プレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを前記一覧表示領域に表示する読み出し手段と、該読み出し手段で読み出したプレゼンテーション資料のスライドを前記スライド表示領域に順次表示させる再生手段と、前記一覧表示領域に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示手段とを備えたことを特徴とするプレゼンテーション資料表示装置。

【請求項2】 前記記憶手段に記憶したプレゼンテーション資料には、使用者にとって所望の順番でスライドが並べられ、また前記表示画面の一覧表示領域は、あらかじめ決められた枚数の画像表示可能な領域であり、さらに前記読み出し手段は、前記読み出したプレゼンテーション資料のスライドのうち最初から順に前記一覧表示領域に表示することを特徴とする請求項1に記載のプレゼンテーション資料表示装置。

【請求項3】 前記強調表示手段は、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示した画像にない場合、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示するスライドに含まれるまで前記一覧表示領域に表示されるスライドの順番を繰り上げて表示することを特徴とする請求項2に記載のプレゼンテーション表示装置。

【請求項4】 前記読み出し手段は、前記一覧表示領域に表示される各スライド間にはスライドに施す効果方法を表示することを特徴とする請求項1から請求項3のうちのいずれか1つに記載のプレゼンテーション資料表示装置。

【請求項5】 スライドを複数組み合わせで作成したプレゼンテーション資料を、前記プレゼンテーション資料のスライド表示領域と前記プレゼンテーション資料のスライドのうち複数枚を縮小して一覧表示する一覧表示領域とを有する表示画面に前記プレゼンテーション資料を表示する方法において、記憶手段から前記プレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを前記一覧表示領域に表示する読み出しステップと、該読み出しステップで読み出したプレゼンテーション資料のスライドを前記スライド表示領域に順次表示させる再生ステップと、前記一覧表示領域に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示ステップとを備えたことを特徴とするプレゼンテーション資料表示方法。

【請求項6】 前記読み出しステップは、読み出したプレゼンテーション資料のスライドのうち最初から順に前記

表示画面の一覧表示領域に表示することを特徴とする請求項5に記載のプレゼンテーション資料表示方法。

【請求項7】 前記強調表示ステップは、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示した画像にない場合、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示するスライドに含まれるまで前記一覧表示領域に表示されるスライドの順番を繰り上げて表示することを特徴とする請求項6に記載のプレゼンテーション資料表示方法。

【請求項8】 前記読み出しステップは、前記一覧表示領域に表示される各スライド間にはスライドに施す効果方法を表示することを特徴とする請求項5乃至請求項7のうちのいずれか1つに記載のプレゼンテーション資料表示方法。

【請求項9】 スライドを複数組み合わせで作成したプレゼンテーション資料を、前記プレゼンテーション資料のスライド表示領域と前記プレゼンテーション資料のスライドのうち複数枚を縮小して一覧表示する一覧表示領域とを有する表示画面に前記プレゼンテーション資料を表示する方法において、記憶手段から前記プレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを前記一覧表示領域に表示する読み出しステップと、該読み出しステップで読み出したプレゼンテーション資料のスライドを前記スライド表示領域に順次表示させる再生ステップと、前記一覧表示領域に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示ステップと、を実現するプレゼンテーション資料表示プログラムを記録したコンピュータ読み出し可能な記録媒体。

【請求項10】 前記プレゼンテーション資料表示プログラムの読み出しステップは、読み出したプレゼンテーション資料のスライドのうち最初から順に前記表示画面の一覧表示領域に表示することを特徴とする請求項9に記載のプレゼンテーション資料表示プログラムを記録したコンピュータ読み出し可能な記録媒体。

【請求項11】 前記プレゼンテーション資料表示プログラムの強調表示ステップは、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示した画像にない場合、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示するスライドに含まれるまで前記一覧表示領域に表示されるスライドの順番を繰り上げて表示することを特徴とする請求項10に記載のプレゼンテーション資料表示プログラムを記録したコンピュータ読み出し可能な記録媒体。

【請求項12】 前記プレゼンテーション資料表示プログラムの読み出しステップは、前記一覧表示領域に表示される各スライド間にはスライドに施す効果方法を表示することを特徴とする請求項9乃至請求項11のうちのいずれか1つに記載のプレゼンテーション資料表示プログラムを記録したコンピュータ読み出し可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、作成したプレゼンテーション資料を読み出し表示できる編集装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の編集装置は、ファイル内の画像をサムネイル表示して表示手段となるディスプレイに一覧表示させたり、またプレゼンテーション用資料として作成したファイルは、その出来栄を作成者に見せるために、ディスプレイに順に表示させるプレビューを実行する機能を有していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前述の構成では、プレビュー中に前後の画像を考慮しながら出来栄を確認するには、一度プレビューを停止終了し、再度一覧表示に切り換える必要があり、確認に手間がかかるとともに、時間的なロスが大きかった。

【0004】この発明は、かかる課題を解決するためのものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明による編集装置は、スライドを複数組み合わせ形成したプレゼンテーション資料を記憶する記憶手段と、前記プレゼンテーション資料のスライドを表示するスライド表示領域と前記プレゼンテーション資料のスライドのうち複数枚を縮小して一覧表示する一覧表示領域とを有する表示画面を表示する表示手段と、前記記憶手段から前記プレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを前記一覧表示領域に表示する読み出し手段と、該読み出し手段で読み出したプレゼンテーション資料のスライドを前記スライド表示領域に順次表示させる再生手段と、前記一覧表示領域に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示手段とを備えた構成である。

【0006】また、前記記憶手段に記憶したプレゼンテーション資料には、使用者にとって所望の順番でスライドが並べられ、また前記表示画面の一覧表示領域は、あらかじめ決められた枚数の画像表示可能な領域であり、さらに前記読み出し手段は、前記読み出したプレゼンテーション資料のスライドのうち最初から順に前記一覧表示領域に表示する構成である。

【0007】また、前記強調表示手段は、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示した画像にない場合、強調するスライドが前記一覧表示領域に表示するスライドに含まれるまで前記一覧表示領域に表示されるスライドの順番を繰り上げて表示する構成である。

【0008】さらに、前記読み出し手段は、前記一覧表示領域に表示される各スライド間にはスライドに施す効果方法を表示する構成である。

【0009】また、スライドを複数組み合わせ作成したプレゼンテーション資料を、前記プレゼンテーション

資料のスライド表示領域と前記プレゼンテーション資料のスライドのうち複数枚を縮小して一覧表示する一覧表示領域とを有する表示画面に前記プレゼンテーション資料を表示する方法において、記憶手段から前記プレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを前記一覧表示領域に表示する読み出しステップと、該読み出しステップで読み出したプレゼンテーション資料のスライドを前記スライド表示領域に順次表示させる再生ステップと、前記一覧表示領域に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示ステップとを備えたプレゼンテーション資料表示方法である。

【0010】さらに、スライドを複数組み合わせ作成したプレゼンテーション資料を、前記プレゼンテーション資料のスライド表示領域と前記プレゼンテーション資料のスライドのうち複数枚を縮小して一覧表示する一覧表示領域とを有する表示画面に前記プレゼンテーション資料を表示する方法において、記憶手段から前記プレゼンテーション資料を読み出すとともに前記スライドを前記一覧表示領域に表示する読み出しステップと、該読み出しステップで読み出したプレゼンテーション資料のスライドを前記スライド表示領域に順次表示させる再生ステップと、前記一覧表示領域に表示する縮小スライドのうち前記スライド表示領域に表示するスライドに視覚的強調を行う強調表示ステップと、を実現するプレゼンテーション資料表示プログラムを記録したコンピュータ読み出し可能な記録媒体である。

【0011】

【発明の実施の形態】通常、新商品の紹介などのプレゼンテーションは、図1に示すように、説明員Aが聴講者Bに対して、例えばパソコン1から出力するプレゼンテーション資料をパソコン1に接続した液晶プロジェクターCのような投影装置からスクリーンDに拡大投影する資料画面Eを利用して行うことが多くなっている。このように、単に説明員Aが口頭のみで説明するより、視覚的な資料を利用して説明するほうが、より聴講者Bにインパクトを与える説明ができる。

【0012】また、パソコンと液晶プロジェクターを用いることは、従来のようにポジ写真とスライドプロジェクターを用いるより、聴講者Bの状況に応じてスライド順序を変更するなど柔軟に対応できる。したがって、条件の許す限り、この方法が良く使用されている。

【0013】この液晶プロジェクターCで投影されるプレゼンテーション資料は、複数枚の画像やグラフなどのスライドから構成されている。該スライドは、通常、図2のような編集装置となるパソコン1で予め作成し、該パソコン1にプロジェクターCを接続して、パソコン1から出力したプレゼンテーション資料を表示させている。

【0014】該パソコン1は、表示画面2aを有する表示手段2と、キーボード3と、ボタン4bを有するボイ

ンティングデバイスまたは操作手段となるマウス4と、CPUなどを有する制御手段5とから構成されている。前記マウス4は、その操作に連動して表示画面2a上のマウスカーソル4aの位置が移動するよう構成されている。

【0015】前記制御手段5を、図3に基づいてさらに説明する。

【0016】6はマウス4の移動量、移動方向及びマウスボタン4bの操作を検出し、出力するマウス制御手段、7は例えば該マウス制御手段6から出力された信号に応じて表示画面2a上の矢印4の表示位置を移動させるなど、表示画面2aへの表示物の表示を制御する表示制御手段、8は表示画面2aのマウスカーソル4aの位置を検出する位置検出手段、9はマウスボタン4bを押したときのマウスカーソル4aの位置が表示画面2a上で表示された情報となる表示物、例えばファイルアイコンや操作ボタン表示などの表示位置と一致するかどうか判断し、一致するならその表示物を指定する指定位置認識手段である。

【0017】10はマウス4の操作によりマウスカーソル4aの移動軌跡を検出する軌跡検出手段、11はマウス4で指定した機能を実行し、その結果を表示制御手段7を介して表示する実行手段、12はマウス4で指定したファイルやフォルダーの編集する機能名を表示する処理機能名表示手段、13は軌跡検出手段10で検出した軌跡が処理機能名表示手段12のいずれかの機能名上を通過しているかどうかを判定し、通過している機能を実行する処理選択手段、14はプレゼンテーション資料を作成編集表示するために実行するプレゼンテーション資料作成編集表示用プログラム、該プログラムで使用する画像素材のファイル、及び作成したプレゼンテーション資料を格納するフォルダーを記憶する記憶手段である。

【0018】かかる構成における動作を以下に説明する。

【0019】なお、以下で説明するプレゼンテーション資料作成編集表示用プログラムは、プレゼンテーション資料として、画像ファイルや文字ファイルから画像や文字等をはめ込み一枚のスライドを形成するための飾り枠となるテンプレート、及び該テンプレートにどのくらい拡大または縮小してどの画像をはめ込むか、どんな音をどのくらいの音量で発するのか、またはどのような順序でスライドを表示するか、などを記述した参照ファイルが存在させ、一つのフォルダー内に記憶させるよう構成されている。

【0020】また、プレゼンテーション資料作成編集表示用プログラムは、起動すると例えば図4乃至図6の表示を表示手段2の表示画面2aに表示する。代表して図4に基づいて表示の説明を行う。

【0021】さらに、プレゼンテーション資料作成編集表示用プログラムは、前述のメモリICなどの装置に設

置された記憶手段に記憶されているほか、フロッピーディスク、CD-ROM、光記憶デバイスあるいはDVDなどの記憶媒体に記憶されていても良い。

【0022】15は作業選択領域、16は該作業選択領域15で選択した作業の操作表示領域、17は最大6枚まで表示可能なスライド一覧表示領域、18は読み出したスライドのうち所望のスライドを表示するスライド表示領域である。

【0023】前記作業選択領域15は、新規プレゼンテーション資料を作成したり、既作成のプレゼンテーション資料を読み出す読み出し作業15aと、スライドの背景画像やレイアウトを変更する作業15b、読み出したプレゼンテーション資料を編集する編集作業15c、前記新規作成作業で作成するスライドのうち一部に指定領域を設け、同じプレゼンテーション資料内の他のスライドにリンクさせたり、または他のプレゼンテーション資料から引用するためにリンクさせるリンク作業15d、作成するスライドの表示させる効果を設定する効果設定作業15e、作成したプレゼンテーション資料の出来具合を確認するために前記スライド表示領域18でスライドショーを実行させるプレビュー作業15f、作成したプレゼンテーション資料を前述のとおり画像ファイル、文字ファイル、グラフファイル、テンプレートファイル及び参照ファイルをここに作成し1つのフォルダーとして記憶手段14に記憶させる記憶作業15g、とが選択可能にボタン形式に表示されている。

【0024】また、一覧表示領域17は、6ヶ所の表示領域17a乃至17fを有し、作業選択領域15の新規作成及び既存資料読み出し作業15aを選択し、順次作成したスライドを縮小して、スライド表示領域17aからサムネイル表示したり、また該作業15aの選択により読み出したプレゼンテーション資料を最初から6枚のスライド分を表示領域7aから順次サムネイル表示するのに使用される。この一覧表示領域17では、6枚以上表示するときは、表示領域17aのスライドをなくして、表示領域17bのスライドを表示領域17aに表示させ、表示領域17cに表示するスライドを表示領域17bに順次繰り上げて表示させ全て表示できるようにしている。

【0025】さらに、各表示領域17a乃至17fの間には、効果作業15eで設定した表示スライドに施す効果をアイコンで表示できる効果表示17gを有している。また、各スライドを表示する際に効果音を鳴らす場合は、ト音記号を一緒に表示させておいてもよい。

【0026】なお、レイアウト変更作業15bを選択した時は、図4に示すように、操作表示領域16にレイアウト変更作業表示19を表示させ、また編集作業15cを選択したときは、図5に示すように、編集作業表示20を表示させ、さらにプレビュー作業15fを選択したときは、図6に示すように、プレビュー作業表示21を

表示させている。

【0027】かかる構成の動作を以下に説明する。以下のステップは、プレゼンテーション資料処理プログラムに相当する。

【0028】まず、既存資料読み出し作業15aを指定した後にレイアウト変更作業15aを指定し、編集作業15cを行うときの動作を図7に基づいて説明する。

【0029】まず、ステップS1では実行手段11の指示により表示制御手段7が表示手段2の表示画面2aに、図5に示す編集画面を表示させる。ステップS2ではマウス4を操作して表示画面2aに表示されるマウスカーソル4aを移動させたかどうか位置検出手段8が判断する。該ステップS2ではマウス4の移動を検出するまで待機する。

【0030】ステップS2でマウス4の移動を検出したとき、ステップS3に移行する。ステップS3では表示画面2a上のマウスカーソル4aの位置を位置検出手段8で検出する。ステップS4ではマウス4のボタン4bが押されたかどうか指定位置認識手段9で判断する。該ステップS4ではボタン4bが押されるまで、ステップS2乃至ステップS4を繰り返し実行する。なお、ボタン4bを押す動作をクリックともいう。

【0031】ステップS4で押されたときと判断したとき、ステップS5に移行する。ステップS5ではマウス4のボタン4aが押されたときの位置が編集操作表示20内に表示された表示物、即ちファイルアイコン22やフォルダーアイコン23上であるかどうか指定位置認識手段9で判断する。

【0032】該ステップS5でボタン4bを押したときの位置が表示物上でないと判断したとき、ステップS6に移行する。該ステップS6ではステップS5でファイルアイコン上にないと判断したとき、ステップS6に移行する。ステップS6では、選択した位置が表示物上でないため選択対象物がないので、ボタン4bのクリックは無効として何も処理せず、ステップS2に戻し、再度ステップS2以下を実行させる。

【0033】また、ステップS5で表示物上でボタン4bが押されたときと判断したとき、ステップS7に移行する。ステップS7では、指定位置認識手段9が実行手段11を介して表示制御手段7に指示し、選択された表示物を選択し、表示色を反転させるなどの選択されたことを表示物に表示する。

【0034】ステップS8では、マウス4のボタン4bが継続して押されたままであるかどうか実行手段11で判断する。該ステップS8で押されたままでないときと判断したとき、ステップS9に移行し、表示物の選択を待機状態とし、その表示物に対し他の処理を行う。

【0035】また、ステップS8でボタン4bが押されたままであると判断したとき、ステップS10に移行する。ステップS10では、ボタン4bが押されて以降、

位置検出手段8で表示画面2a上のマウスカーソル4aの移動軌跡を軌跡検出手段10で検出する。

【0036】ステップS11では、軌跡検出手段10で検出した軌跡が、編集表示画面20の処理機能名表示部24に表示されたいずれかの機能名上を通過したかどうか処理選択手段13で判断する。即ち、選択した画像ファイルやフォルダー内容を現在編集しているプレゼンテーション資料のスライド追加する場合は、領域24a上を通過させ、また現在編集しているスライドに嵌め込まれている画像と交換したい場合は、領域24b上を通過させ、更に現在編集しているスライドの次に新規にスライドを投入して画像を差し込みたい場合は領域24c上を通過させることである。

【0037】該ステップS11で通過していないと判断したとき、ステップS12に移行する。ステップS12では、ボタン4bの押されつづけている状態を解除したかどうか、実行手段11で判断する。

【0038】該ステップS12で解除されていないと判断すると、ステップS10に戻し、引き続き軌跡検出手段10による軌跡検出を継続する。またステップS12で解除されたと判断したとき、ステップS13に移行し、実行手段11が軌跡検出手段10の軌跡検出を終了してステップS2に戻る。

【0039】またステップS11で機能名上を通過したと判断したとき、ステップS14に移行する。ステップS14では、処理選択手段13でマウスカーソル4aの軌跡が処理機能名表示部24のいずれの機能名上を通過したかを判定し、通過した機能を実行する。例えば、マウスカーソル4aを領域24a上を通過させると、ステップS7で選択した表示物を現在編集中のスライドに追加する処理機能を実行させることである。

【0040】前述の実施例では、機能名をあらかじめ編集操作表示20内に表示させているが、これに限らず、図8に示すように、編集操作表示20内には処理機能表示部24を表示しないで、編集操作表示20に表示された表示物、例えばファイル22を指定したときに、ファイル22の周囲に処理機能名表示部24'を表示させる。該処理機能名表示部24'は追加処理領域24'aと交換処理領域24'bと新規処理領域24'cとが表示され、軌跡検出手段10でマウスカーソル4aの軌跡がいずれかの領域を通過したとき、通過した機能を指定できるように制御することも可能である。

【0041】かかる構成の動作は、図9に示すように、殆ど図7の動作フローチャートと同じである。異なる点は、ステップS8とステップS10との間にステップS15が挿入される点である。該ステップS15では表示物がステップS7で選択され、マウス4のボタン4bが継続して押されていると、処理選択手段13で選択した表示物の周囲に処理機能名表示部24'を表示させている。他のステップは同じ動作なので説明は省略する。

【0042】なお、前述の処理作業において、複数のスライドの飾り枠（フレーム）、即ちテンプレートを一括して変更したい場合は、マウス4を操作して一覧表示領域17の表示されたスライドのうち変更したいスライドを選択し、その後処理操作表示20に表示されたファイルのうち変更したいテンプレートが記憶されているファイルを選択し、前述の指定方法で交換処理を指定すると、複数の指定スライドのテンプレートを一括で変更できるようにされている。

【0043】また、プレゼンテーション資料に複数枚の画像などのスライド素材を飾り枠内に嵌め込みたいときは、処理操作表示20に表示された素材ファイル及び素材ファイルが階層的に格納されたフォルダーうち、ファイルまたはフォルダーを問わず、所望のファイルやフォルダーを複数指定し、前述の指定方法で新規スライド投入を指定したとき、一度にスライド追加と画像の挿入が実行される。このとき、追加される順番は、マウス4で選択した順番としても良い。またフォルダー内の素材ファイルは、階層構造に関係なく、例えばアルファベット順に並べ直した上で追加挿入しても良い。

【0044】以上の操作を繰り返すことにより、所望のプレゼンテーション資料に仕上げていく処理を行うのである。尚、処理操作が終了した時点で、保存作業15gを選択し、現在のプレゼンテーション資料を保存するのが通常である。

【0045】次に、作成したプレゼンテーション資料の仕上がりを確認するために、作業選択領域15内のプレビュー作業15fを選択しプレビュー動作を以下に説明する。以下のステップは、プレゼン資料表示プログラムに相当する。

【0046】まず、ステップS20では、実行手段11の指示により表示制御手段7が表示手段2の表示画面2aに、図6に示すプレビュー画面を表示させる。このプレビュー作業で見るプレゼンテーション用資料は、新規作成作業及び既作成のプレゼン資料の読み出し作業により現在読み出されているプレゼン資料が表示されている。

【0047】また、プレビュー画面を表示させたときは、スライド表示領域18には1番目のスライドを表示させるとともに、一覧表示領域17には1番目のスライドから6番目のスライドを表示領域17a乃至17fに順次表示する。そして、現在スライドの表示領域18に表示しているスライドの表示領域17に枠の色を変えて強調表示する。即ち、現在は1番目のスライドが表示されているので、1番目のスライドの表示領域17aの枠を、例えば他の枠は青色であるのに対し赤色に変更して、強調表示させたり、図6中の強調枠Xで強調する表示領域を囲むようにして強調している。

【0048】ステップS21では、プレビュー操作表示21内のプレビューボタン25がマウス4により選択さ

れたかどうか位置検出手段8及び指定位置認識手段9で判断する。該ステップS21で選択されるまで待機状態となる。

【0049】ステップS21でプレビューボタン25が選択されたと判断したとき、ステップS22に移行する。ステップS22では、表示領域18に所定の時間間隔でスライド表示再生、即ちプレビューが実行手段11により実行される。ステップS23ではステップS22でのプレビューに同期して、実行手段11が表示制御手段7を介して表示領域18に表示されるスライドを一覧表示領域17のうち表示領域18に表示されるスライドに前述の強調表示を行うようにする。前記ステップS22は再生手段またステップS23は強調表示手段に相当する。

【0050】また該ステップS23では、7番目のスライドが表示領域に表示される場合、表示領域17aのスライドを消して、表示領域17bのスライドを表示させ、表示領域17cのスライドを表示領域17bに表示させるように、順次繰り上げて表示させ、表示領域17fには7枚目のスライドを表示させるように動作させる。8枚目以後のスライドも同様な動作により表示させるのである。

【0051】ステップS24では、プレビュー操作画面21の停止ボタン26が操作されたかどうか位置検出手段8及び指定位置認識手段9で判断する。該ステップ24で操作されていないと判断すると、ステップS22に戻り以下のステップを再度実行する。

【0052】ステップS24で停止ボタン26が操作されたと判断したとき、ステップS25に移行する。ステップS25では実行手段11でプレビュー動作を停止し、終了する。

【0053】以上により、スライドショーを実行しているときも、現在のスライド位置が確認でき、また一覧表示領域17の効果表示17gを考慮してスライドショーの出来具合を確認し易くするものである。

【0054】前述の実施例において、保存作業では、作成したプレゼンテーション資料を前述のとおり画像ファイル、文字ファイル、テンプレートファイル及び参照ファイルをここに作成し1つのフォルダーとして記憶手段14に記憶させている。

【0055】しかしながら、プレゼンテーションに使用される液晶プロジェクターに接続される携帯用パソコンなどのメモリは、その記憶容量に制限があり、あまり大きなデータ容量となる資料は組み込めない場合がある。そこで、前述のフォルダーとは別に、画像や文字を嵌め込んで表示画面に表示したスライドを1つの画像として画面キャプチャーし、JPEGやBMPなどの汎用画像フォーマットに変換して、保存時の選択によりスライド画像ファイルとして別ファイルで記憶させ、フロッピーなどの記憶媒体に出力し、携帯用パソコンなどに組み込

めるようにしても良い。

【0056】この時、前述のリンク作業にてスライド内の画像や文字にリンク情報を設定している場合は、そのスライド内のリンク情報が設定されている画像や文字の位置や領域及びリンク先の情報を、スライド画像ファイルとは別の領域情報ファイルとして前記スライド画像ファイルとともに前記記憶媒体に記憶させる。

【0057】そして、該記憶媒体を、または記憶媒体の各ファイルをプレゼンテーション装置に組み込むことにより、説明員が、プレゼンテーション時にスライド内のリンク情報が設定されている領域をクリックすることで、リンク設定されている別のスライドに移行する動作が実現できるようにしても良い。

【0058】このことにより、プレゼンテーション資料の作成時、スライド表示順序に制約を受けることがなくなり、またメモリの小さな携帯用パソコンなどに組み込む際は、少ない記憶容量で実現できるので、使い勝手が向上するものである。

【0059】また、前述の実施例の方法で、例えば図11に示すプレゼンテーション資料のスライドを作成したとする。該スライド30は、図11(a)に示すように、画像嵌め込み領域31を有しており、該画像嵌め込み領域31にはこの領域に収まりきれない大きな画像、例えば図11(b)に示すような会社の組織図を表示させる場合、画像全体を非常に縮小することになる。

【0060】このような場合、縮小すると聴講者にとってスライド内容が見にくいので、これを見やすくするために、プレゼンテーション資料作成者は、従来、組織図を図11(b)に示すように、2つに分割して別々の画像ファイルに作り直し、各画像ファイルを別々のスライドに投入していた。

【0061】また、見づらいスライドというのは、画像の表示だけに限らない。例えば、商品紹介プレゼンテーションのような場合、商品特徴を文字だけで記述したスライドも多く利用されている。この商品特徴が、10個以上あれば図12(a)に示すように文字サイズを小さくして1枚のスライドに収めるか、図12(b)に示すようにスライドを2枚に分割して作成しなければならなかった。

【0062】この場合も、前述の場合と同様、文字サイズの小さなスライドを表示すれば聴講者にとって大変見ずらく、また図12(b)のように2枚に分割する場合は、2枚の表示内容を考慮しながら作成する手間が必要であった。特に、図12(b)において、1枚目のスライド内容の特徴(1)の第3項目を削除したとき、第4項目から第10項目までを繰り上げる必要がある。このとき2枚目のスライドの特徴(2)の第6項目内容を削除し、1枚目のスライドの第5項目に第6項目内容を嵌め込む作業が発生し、作成者にとって手間がかかっていた。

【0063】プレゼンテーション資料は、見やすくすることが基本であり、縮小することで聴講者にとって見にくく、あまり良い印象を与えない。

【0064】そこで、図11(a)のようにスライドに画像を縮小して投入すると同時に、この縮小率が大きければ、該画像の元サイズを保ったまま貼り付けたスライドを新規に自動作成し、その作成したスライドと、前述の縮小画像と前述のリンク作業によりリンクさせることが考えられる。従って、図11(a)の画像をクリックすれば、最初、図11(b)の領域33a部分を表示させ、再度表示画面をマウス4でクリックしたとき、次の領域33bを表示するようにすることである。

【0065】また、図12に示すように、プレゼンテーション資料作成者は、スライドサイズとはテキスト文書を無関係に作成し、作成した資料を前述と同様に貼り付けると、貼り付けるテキストの行数を計算し、あらかじめ行数を指定しておいた1スライド内の最大文字数よりも多ければ、自動的にスライドを追加して1枚のスライドに入る最大文字行数を超えた部分のテキストのみを切り出し、貼り付けることである。もちろん、この時リンク設定も自動設定されている。

【0066】そうすることにより、スライド作成者は、スライドの表示サイズを考えながら作成する必要がなく、とにかく、表示させたい資料を作成するだけで、聴講者に見やすいスライドを容易に作成することを可能とするものである。

【0067】前述の構成を図13に基づいて詳細に説明する。

【0068】34はパソコンなどのプレゼンテーション制御装置、35はスライド画像を表示するスクリーン、39はプレゼン制御手段37から出力されるスライド映像をスクリーン35に照射する照射手段である。

【0069】前記プレゼンテーション制御装置34は、前述のプレゼンテーション資料作成編集表示プログラムで作成したプレゼンテーション資料を組み込むためのメモリー36と、該メモリーからプレゼンテーション資料を読み出し出力するプレゼン制御手段37と、該プレゼン制御手段37を操作する操作手段38と、から構成される。

【0070】前記プレゼン制御手段37は、図14において、スライドを表示させるスライド表示手段40と、スライド内に設けられた画像嵌め込み領域に所定の画像を縮小して嵌め込む画像表示手段41と、操作手段38で指定したスライド上の位置が前記画像嵌め込み領域かどうか判断する指定位置判断手段42と、該指定位置判断手段42で操作手段38の指定位置が画像嵌め込み領域であると判断したとき、その画像を拡大して表示させる拡大表示手段43とを含んで構成されている。

【0071】かかる構成の動作を図15に基づいて説明する。

【0072】ステップS100では、プレゼンテーション制御装置34の電源を入れて、装置を立ち上げる。ステップS101では、プレゼン制御手段37が操作手段38からプレゼンテーションの開始操作が行われたかどうか判断する。該ステップS101で開始操作がなされるまで待機状態となっている。

【0073】ステップS101で操作手段38から開始操作されたと判断したとき、ステップS102に移行する。ステップS102では、プレゼン制御手段37が、操作手段38の操作に応じて所望のプレゼンテーション資料をメモリ36から読み出す。

【0074】ステップS103では、プレゼン制御手段37のスライド表示手段40がプレゼンテーション資料の1枚目のスライドを照射手段39を介してスクリーン35に表示させる。このとき、スライド内に画像嵌め込み領域があれば、画像表示手段41が表示する画像を、プレゼンテーション資料の参照ファイルの内容に応じて画像嵌め込み領域内にはまり込むように縮小し、スライドとともに表示させる。

【0075】ステップS104では、プレゼン制御手段37が操作手段38で次の順番のスライドを表示させる操作がされたかどうか判断する。また、ステップS105では、操作手段38でスライド内の所望の位置を指定したとき、プレゼン制御手段37が画像や文字が表示された領域で、かつ領域情報ファイルからリンク設定されている領域かどうかを判断する。さらに、ステップS106では、指定位置判断手段42が、操作手段38でスライド内の所望の位置を指定したとき、図11で説明した画像嵌め込み領域かどうか判断する。

【0076】前記ステップS104乃至ステップS106は、操作手段38で例えばマウスを操作して、スライド内の所望の位置をクリックしたとき、その位置が次のスライドに表示を切り換えるボタン表示領域か、リンク情報が設定されている領域か、または縮小画面が表示されている領域かをプレゼン制御手段37が判断する。この判断結果に基づいて、以下のステップをプレゼン制御手段37が実行するのである。

【0077】まず、ステップS104で次にスライドを表示させる操作が行われたと判断したとき、ステップS107に移行する。ステップS107では、プレゼン制御手段37が現在のスライド表示を消して、次の順番のスライドを照射手段39を介して表示させる。

【0078】また、ステップS105でリンク情報が設定されている領域を操作手段38で指定されたと判断したときは、ステップS108に移行する。ステップS108では、プレゼン制御手段37が領域情報ファイルを参照してリンク先のスライドを現在のスライドと切り換えて、照射手段39を介して表示させる。

【0079】さらに、ステップS106で縮小表示された領域が指定されたと判断したとき、ステップS109

に移行する。ステップS109では、例えば図11のスライド30が表示されていたとし、画像嵌め込み領域31内を指定したとすると、拡大表示手段43が、拡大した画像の一部の領域33aをまず表示する。

【0080】ステップS110では、次画面表示操作がされたかどうかプレゼン制御手段37が判断する。該ステップS110で操作されたと判断すると、ステップS111に移行する。ステップS111では、プレゼン制御手段37の拡大表示手段43が次に画面33bを切り換え表示させる。該ステップS111を実行後はステップS110に戻る。

【0081】また、ステップS112では、プレゼン制御手段37が操作手段38でスライド表示に戻す操作を行ったかどうか判断する。該ステップS112で操作を行っていないと判断したとき、ステップS110に戻らせる。

【0082】ステップS112で操作したと判断すると、ステップS113に移行する。ステップS113では、プレゼン制御手段37が元のスライド表示に切り換える。

【0083】前記ステップS107、S108及びS113の実行を終了したとき、ステップS114に移行する。ステップS114では、プレゼン制御手段が、プレゼンテーションを終了させる操作がされたかどうか判断する。該ステップS114で終了操作されていないと判断したとき、ステップS104に戻し、ステップS104乃至ステップS113を繰り返し、実行する。

【0084】ステップS114で終了操作されたと判断するとステップS115に移行する。該ステップS115では、プレゼン制御手段37がプレゼンテーションの表示を終了する動作を行う。

【0085】以上の動作によりプレゼンテーションの動作を終え、終了するのである。

【0086】尚、前述のプレゼンテーション制御装置の実施例で、プレゼンテーション資料をそのまま利用していたが、プレゼンテーション制御装置内の使用メモリー容量を少なくするために、前述したスライド画像ファイルと領域情報ファイルとで構成し、スライド表示手段40のみを使用して表示させても良い。

【0087】

【発明の効果】この発明によれば、スライドの前後関係を確認しながら、プレゼンテーション資料の出来上がり状態を、時間ロスなし容易に確認できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】プレゼンテーションを行っている一場面を示す図である。

【図2】本発明の編集動作を行うパソコンの概観を示す図である。

【図3】図2のパソコンの制御ブロック図である。

【図4】既作成スライドの読み出し作業の表示画面を示す

す図である。

【図5】編集作業の表示画面を示す図である。

【図6】プレビュー作業の表示画面を示す図である。

【図7】編集作業の動作フローチャートを示す図である。

【図8】編集画面の他の実施例を示す要部拡大図である。

【図9】図8の他の編集作業の動作フローチャートを示す図である。

【図10】プレビュー作業の動作フローチャートを示す図である。

【図11】作成したスライドの一実施例を示す図である。

【図12】作成したスライドの他の実施例を示す図である。

【図13】プレゼンテーション制御装置の該略図である。

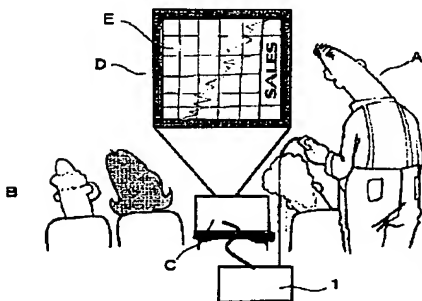
【図14】図13中のプレゼン制御手段の構成を示す図である。

【図15】プレゼンテーション制御装置の動作フローチャートを示す図である。

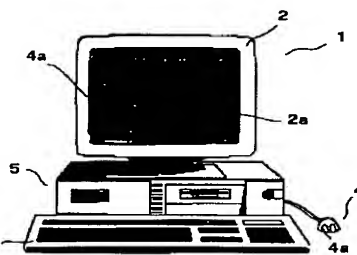
【符号の説明】

- 1 パソコン
- 2 表示手段
- 2a 表示画面
- 4 マウス
- 5 制御手段
- 8 位置検出手段
- 9 指定位置認識手段
- 10 軌跡検出手段
- 11 実行手段
- 12 編集機能名表示手段
- 13 編集選択手段

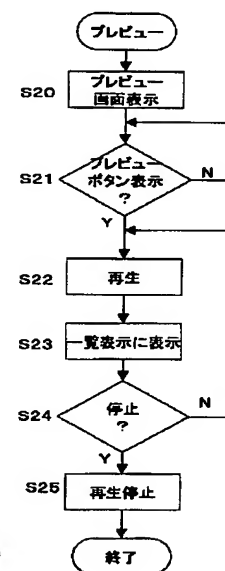
【図1】



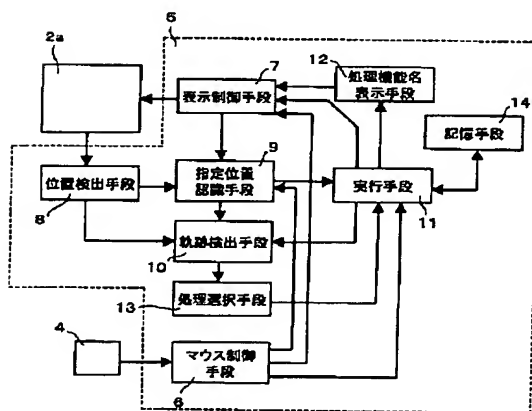
【図2】



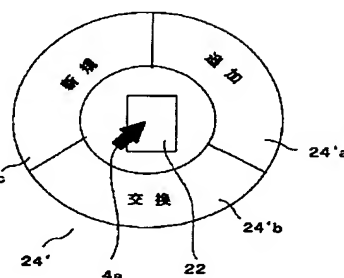
【図10】



【図3】

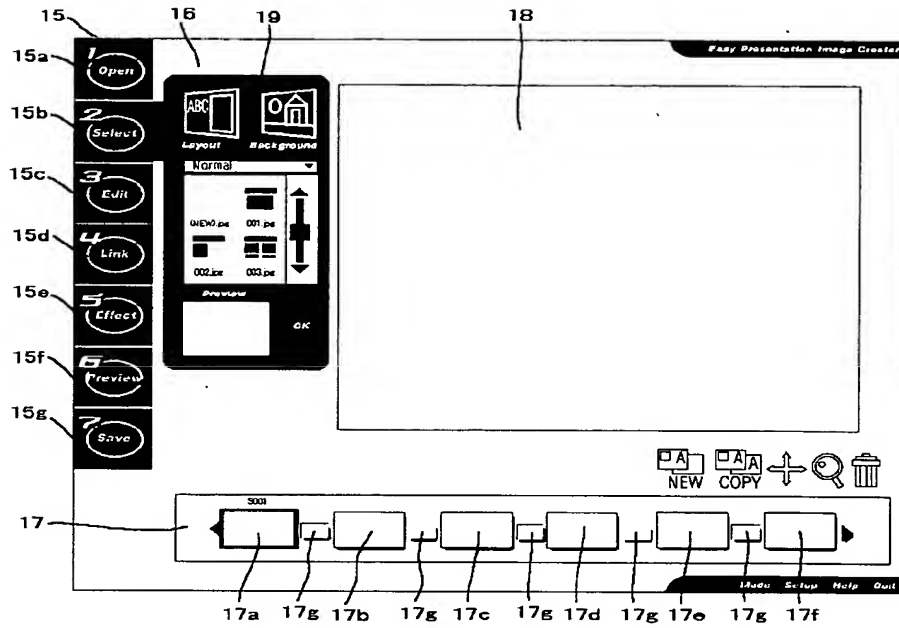


【図8】

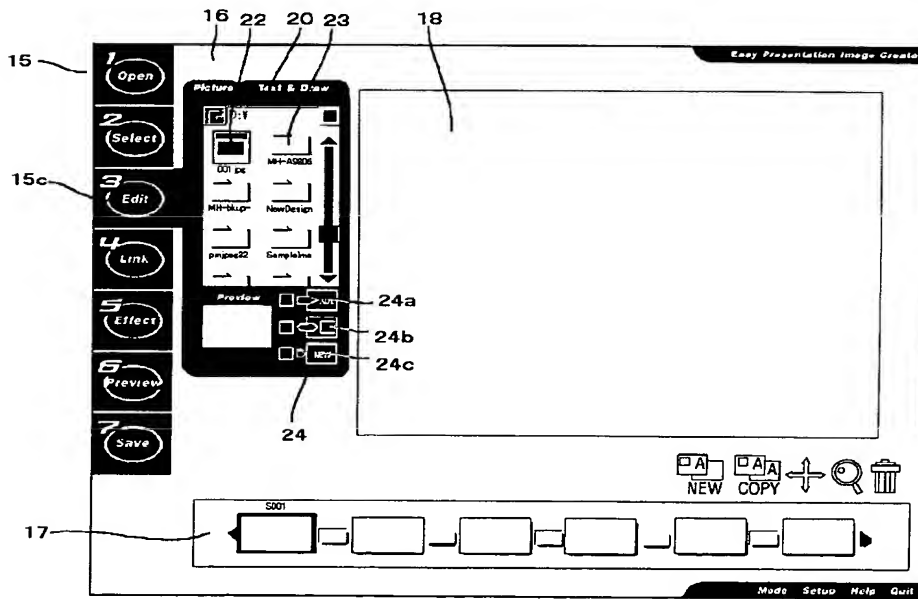


(10)

【図4】

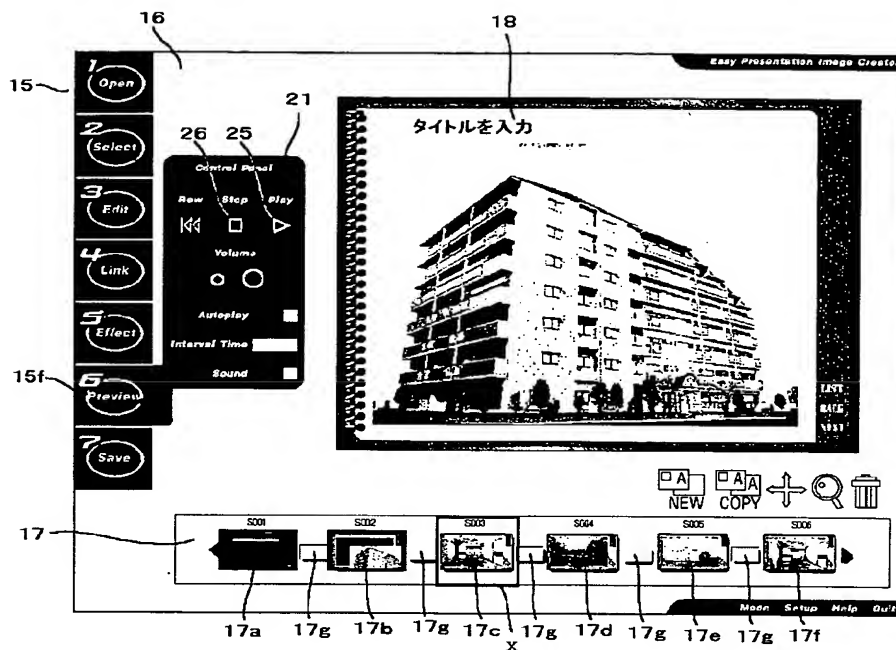


【図5】

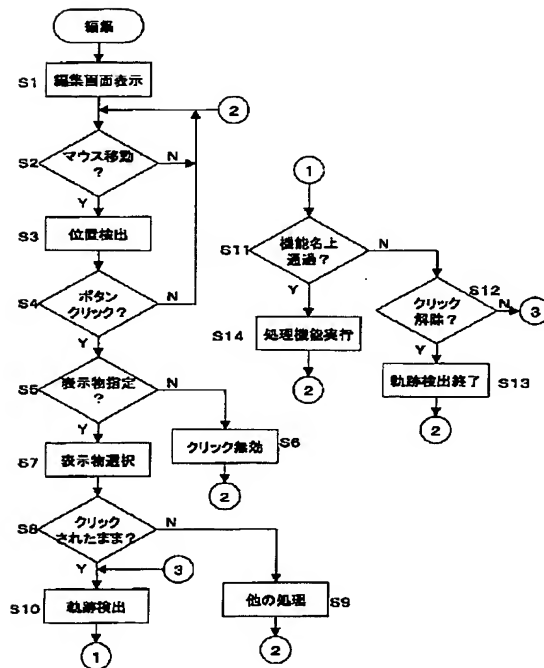


(11)

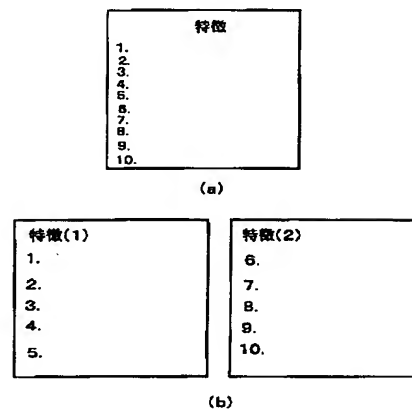
【図6】



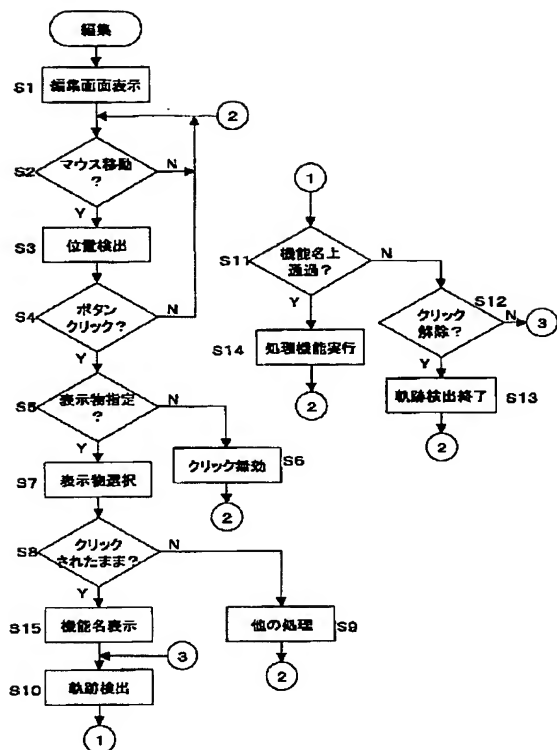
【図7】



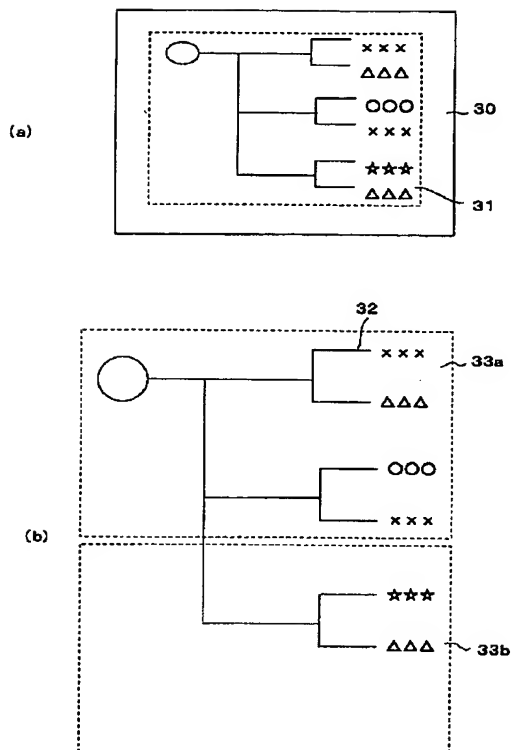
【図12】



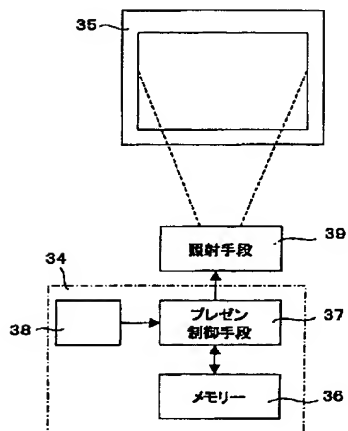
【図9】



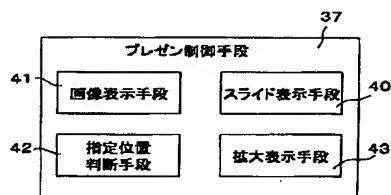
【図11】



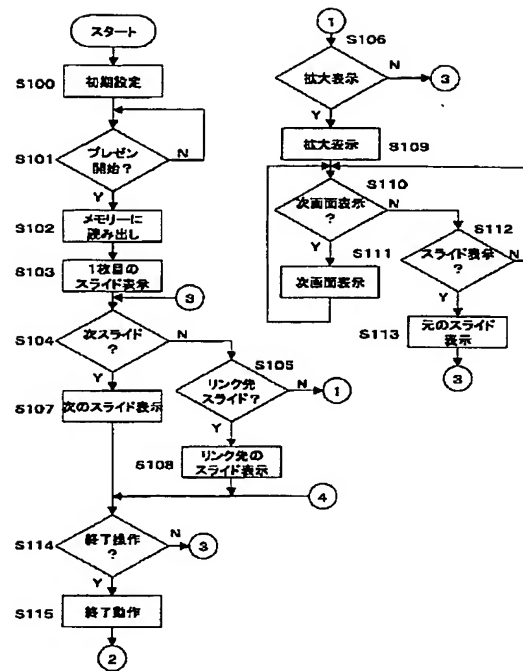
【図13】



【図14】



【図15】



フロントページの続き

(72)発明者 榎本 哲也
大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 天野 隆平
大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 竹本 賢史
大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 井原 幹二
大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機ソフトウェア株式会社内

Fターム(参考) 5C082 AA01 AA03 AA22 AA24 AA37
BA12 BA27 CA02 CA33 CA34
CA52 CA54 CA76 CA82 CB06
DA87 MM09